

# 日刊 動労千葉

84. 8. 8

No. 1711

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二（22）七二〇七

# 効弾言発敵対差別の差別・敵対発言弾効 来栖敏（デッチあげ「千葉」本部）の差別・敵対発言弾効

## 当局の尖兵・革マルの手先を断固として追放・掃せよ

動労「本部」革マルは、七月十七日から三日間、秋田市で第40回全国大会を開催し「国鉄を国鉄として維持するために、骨身を削って働く」方針のもとに七月五日、六日に行った自民党への哀願行動を唯一、最大限賛美し、自民党・国鉄当局にくつついて生きのびる反動方針を決定した。

ところで、「千葉地本代議員」として参加した銚子の来栖忠敏（デッチあげ「千葉地本」交渉部長）は、動労千葉と国労を侮辱し敵対する断じて許せぬ発言を行った。  
われわれは、革マル反動分子の提灯持ちになりさがり、動労千葉への敵対を宣言した来栖を絶対に許さず、徹底的に追及することを明らかにする。

### 動労千葉・国労破壊を宣言した来栖

全国大会三日目の午後に行われた「運動方針」の質疑では、全国の戦闘的代議員から動労「本部」革マルの裏切りを糾弾する多くの発言が行われた。  
ところが、デッチあげ「千葉地本」を代表してただ一人発言にたつた来栖は、まったくもって許せぬ差別・敵対発言を行った。

自民党、国鉄当局への哀願に組合員をひきまわした「7・5/6全国行動に感動した」などと、革マル分子にお世辞を使った後で、「国労幹部の御身大切といえますか、大相撲でいう年寄株でも買ったみたいない地位保全にうつつぬかす、老人ボケのような大国労意識、あるいは、きちがい集団（発言のママ）の三里塚闘争に勝利することが国鉄攻撃を粉砕する唯一のたたかい、と犬の遠吠えをしている千葉動労……」と発言し、革マル分子以外の代議員、傍聴者の憤激をかっただのである。  
われわれは、来栖の差別・敵対発言を断じて許すことはできない。  
わが動労千葉を「きちがい集団（発言のママ）」と規定した以上、発言の責任は必ずとってもらわねばならない。

### 「働こう運動」の先頭にたつ来栖

さらに来栖は「働こう運動」を千葉にもちこむ合理化！労働強化の尖兵としての姿を暴露する、断じて許せぬ発言を行った。

その第一は、冒頭「基地統廃合」の動きについて触れ、なんと「千葉県地図を見ますと十一の運転基地があります。かなり多いという感じはわれわれもしているところであります」と述べ、「60・3ダイ改」時に成田運転区、蘇我機関区を

はじめとする基地の統廃合を狙う当局の攻撃に、「十一も基地があつては多すぎる」と承認を与えたのである。

第二に、来栖は、「外周区の基地を守るため」「外周区への転勤希望者の希望をかなえるため」と称し、「『60・3ダイ改』をめぐる局交渉において、勝浦、館山、銚子の特急列車を東京まで延長担当しろと要求した」と述べ、当局の実ハンドル時間延長の狙いを逆に労働組合の名をもって要求するという、恥ずべき発言を行った。

第三に、来栖は発言の大半を「木原線問題」に費し、当局以外どこの単産からも相手にされなかつたとはいえ、「ワンマンレールバスの導入により、切符切りから車両清掃まで、骨身を削って働こう」との「動労提言」―「地交線対策」の、千葉へのもちこみを策動してきた事実を明らかにした。

### 革マル反動分子の手先Ⅱ来栖

こうした来栖の発言をうけて、「執行部」の革マルⅡ緒方、福原は「千葉動労は何もしていない。遠吠えでしかない」「いまだき順法闘争などをやっている国労とは共闘できない」と答弁し、革マルの忠実な手先Ⅱ来栖を激励したことはいうまでもないことである。

来栖は、革マル分子に身も心も売り渡し、千葉で働く労働者の利益を裏切り、動労千葉・国労破壊の先頭にたつことを宣言したのだ。

来栖は、動労「本部」革マルの手先である。来栖は、労働強化・首切り・基地統廃合の合理化強行と労働組合破壊を狙う国鉄当局の手先Ⅱ国鉄労働者の敵である。

国鉄労働者の怒りの決起で、革マル反動分子もろとも追放、一掃しなければならぬ。